

解答

- 一
- 問一 ウ
問二 ① 努 ② つい（やす） ③ 供給 ④ おこた（つて） ⑤ 相当
問三 心のエネルギーを節約し、無夢想に応対しているのに、疲れた顔をしたりする点。
問四 ア ④ イ ⑤ ウ ①
問五 ④
問六 A群：⑤、B群：②
問七 自分のなかの新しい鉱脈を発見することができない。／何となくイララし、エネルギーの暴発現象を感じる。
問八 ① ○ ② × ③ × ④ × ⑤ ○
- 二
- 問一 オ
問二 ① 任 ② つらがま（え） ③ 繼 ④ まき（らせ） ⑤ 終始
問三 船量に苦しんでいたということ。
問四 ウ
問五 自分は船量から脱し、みなを氣の毒には思うが、誰にも同情せずどうしてやろうという気持がないことを戒融に指摘されたから。
問六 仏教文化を取り入れるために中国に向かっている。
問七 エ
問八 オイ
問九 イ

解説

一

問五 空欄I、IIを含む段落とその直前の段落に着目します。エネルギーの消耗について単純計算が成立しないのは、人間は生きものであるという事実によっているという内容から考えると、単純計算が可能で、生きものでない組み合わせの④が最も適切です。

問八 本文前半にある二、三、四段落目の内容から、①が筆者の考えと一致することがわかります。また、最終段落で述べていることは、⑤の内容と一致します。

二

問三 第一段落の内容から、船が揺れ、留学僧たちが、船量に苦しんでいることがわかります。

問八 本文中盤にある、戒融が船量から抜け出した普照の気持ちを言い当てる姿や、本文の終わりにある玄朗の言葉を遮る場面から、選択肢イが最も適切であることがわかります。

問九 本文には、唐土へ向かう船の中で船量に苦しむ三人の留学僧と、苦しみを脱した普照の姿が描かれています。普照と戒融のやりとりや、戒融と玄朗のやりとりを通じ、各々が自分の考えを言い合う様子や、それに対するそれぞれの反応や思い等が丁寧に表現されているので、選択肢オが最も適切です。